

vol.29 mar. 2018



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2017年度 旅立ち	
卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在学生へ	6
卒業する先輩留学生から在学生へ	10
退職の年を迎えて	12
大学院紹介	16
グローバル人材育成プログラム	20
海外留学体験記	21
業界で活躍している卒業生より	22
大学祭紹介(海鷹祭)	24
新任教員の紹介	25
課外活動報告	26
学生大会報告書	27
ニュース & トピックス	28
学生相談室からのお知らせ	35
お知らせ	37

◆2017年度 旅立ち

■卒業特集

◎卒業生・修了生のみなさんへ

新たな挑戦の始まり	竹内 俊郎…… 3
卒業生の皆さんへ	佐藤 秀一…… 4
卒業生のみなさんへ	塚本 達郎…… 5
大学院修了生の皆さんへ	井関 俊夫…… 5

◎卒業生・修了生から在学生へ

悔いのない学生生活を！	川村 怜央…… 6
卒業生から在学生へ	新海 太斗…… 7
在学生の皆さんへ	宮 大生…… 7
卒業生から在学生へ	連 紘樹…… 8
経験	樋川恵利那…… 8
新入生の皆さんへ	松井 絵美…… 9
百聞は一見に如かず	秋田 晋吾…… 9

◎卒業する先輩留学生から在学生へ

新入留学生に向けて	呉 袖天…… 10
先輩へのメッセージ	劉 欣…… 11

■退職の年を迎えて

二兎を追う者は・・・	大島 敏明…… 12
リアリティのある水産教育・研究を	
	岡崎恵美子…… 12
母校の学生の皆さんへ	明野 進…… 13
退職の年を迎えて	坪井 堅二…… 13
その日、その時、	山崎 秀勝…… 14
時間という可能性	武田 誠一…… 14
退職の年を迎えて	佐藤 匡…… 14
退職の年を迎えて	今野 務…… 15
あっという間に定年	福島 晃一…… 15

■大学院紹介

海洋生命資源科学専攻	坂本 崇…… 16
食品流通安全管理専攻	濱田奈保子…… 17
応用環境システム学専攻	竹本 孝弘…… 19

■グローバル人材育成プログラム

新たな世界	手塚 旭美…… 20
香港キャリアプログラムを通じて	山主 麻由…… 20

■海外留学体験記

NTMAインターンに参加してみよう	渡邊 悠平…… 21
海外で働くということ(シンガポール)	
	池原 徹…… 21

■業界で活躍している卒業生より

在校生に向けて	青柳 辰洋…… 22
後輩の皆様へ	菊池 光輝…… 23

■大学祭紹介(海鷹祭)

海鷹祭を終えて	木藤 拓也…… 24
---------	------------

■新任教員の紹介

海洋電子機械工学部門	米田 昇平…… 25
海洋資源エネルギー学部門	Golmen Lars…… 25

■課外活動報告

動植物研究会	…… 25
男子バレーボール部	…… 25

■2017年度後期定例学生大会報告書 …… 27

■ニュース&トピックス

- ・「父母等懇談会」を開催しました…… 28
- ・「学長と学生との懇談会」を開催しました…… 29
- ・平成29年度「東京海洋大学修学支援事業基金 奨学金授与式(前期)」を行いました…… 29
- ・「海の日」記念行事を開催しました…… 30
- ・平成29年度(9月期) 学生表彰授与式を行いました…… 30
- ・平成29年度9月期 学位記・修了証書授与式を行いました…… 31
- ・平成29年度10月期 大学院入学式を行いました…… 31
- ・第53次海鷹丸遠洋航海に出港しました …… 32
- ・平成29年度留学生懇談会を開催しました …… 33
- ・サークルリーダーシップ研修会を開催しました…… 34

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について…… 35
- ・学生相談体制について…… 36

■お知らせ

- ・交換留学制度について…… 37
- ・就職支援体制について…… 38
- ・図書館からのお知らせ…… 38
- ・国立科学博物館および国立美術館の利用について…… 38
- ・国立劇場の利用について…… 38
- ・保健管理センター開所時間変更のお知らせ…… 39
- ・緊急時連絡システムへ登録を！ …… 40
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項…… 42
- ・学生関係窓口の対応時間変更のお知らせ…… 43
- ・悪質な就活商法に関する注意喚起…… 43

2017年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生のみなさんへ

新たな挑戦の始まり

学 長
竹 内 俊 郎

本年は明治維新から数えて150年の節目の年です。そして、50年ごとに大きなことが起こるとも言われています。ひも解いてみますと、1868年の50年後の1918年は第1次世界大戦の終結の年であり、わが国ではコメ騒動が起こった年です。また、100年後の1968年は明治丸により日本の領有となった小笠原諸島の日本復帰がなされた年であり、ロバートF.ケネディーの暗殺や、大学紛争が盛んになった年でもあります。私は、ちょうど浪人していた年であり、翌年の入試があるとかなないとかで大変な思いをいたしましたし、入学してから大学がロックアウトを行い、授業が始まったのが秋からだったのを覚えています。

また、本年は^{いぬ}戌年ですが、その中でも^{つちのえいぬ}戌戌の年で、一つの区切り、新しい始まりに向けて準備を整える年とも言われています。戌は植物の成長の絶頂期、戌は草木が枯れて地に還る状態を意味し、繁栄か滅亡のどちらかになるとも言われています。この3月に卒業・修了する皆さんにとって、ぜひ、繁栄の一步になることを願っています。

さて、このほど卒業する海洋科学部の皆さんは、TOEICテストで大変な努力をされたことと思います。4年次進級時に600点をクリアしていないと卒論に着手できなかったからです。97.5%の皆さんがこのハードルをクリアされたことに敬意を表します。たぶん大きな自信になったことでしょう。今後の人生にとって



ても大きな力になると思います。

海洋工学部の皆さんの中にはグローバル・リーダーシップ・イニシアティブ(GLI)プログラムを履修した方も多かったと思います。こちらは、英語能力・グローバルな知識・グローバルコミュニケーションの体験及び社会的な責任を担う体験、の4種類の科目に合格した学生に認定するものです。

どちらもグローバルに活躍する産官学のリーダーを養成するためのプログラムであり、グローバルな視点で実践的に活躍できる人材を育てるために設けています。ぜひ、これらの主旨を理解して欲しいと思いますし、そのプログラムで学んだことを胸に、世界で羽ばたいてください。

水産専攻科の皆さん、最後の遠洋航海によりいろいろな意味で一回りも二回りも大きくなったことと思います。実習中は1) 大自然と対峙し、2) リスクをいつ

も抱え、3) 社会との断絶の中で、約3か月間過ごしてきたわけです。すなわち、大自然を相手に予定の変更があつて当たり前、けがや病気には最善の注意が必要、携帯電話も通じず、コンビニへ買い物にも行けない、いわゆる閉鎖社会において、長期間過ごすことは大変なストレスがあつたことと思います。このような環境を皆さんはしっかり乗り越え、解決したわけです。この難関を突破したことは、今後の人生にとって極めて有意義であると言えます。企業の方々はコミュニケーション能力を発揮して、問題解決を図ることができる学生を求めています。まさに皆さんはそれを実践されました。自信を持ち、前向きに、何事にもチャレンジしてください。

多くの学生が入学した2014年は一つの大きな事件がありました。STAP細胞による一連の論文不正です。皆さん、覚えていますか？研究に携わった卒業生はもとより、大学院生にとって心にとめておかなければならない重要な事柄です。皆さんが研究し、データを整理するとき、また、論文を作成している中で、この問題をしっかり認識したでしょうか？研究不正を防ぐために、本学では4年生以上の皆さんに、CITI JAPANのプログラムの受講を義務付けしました。今後、研究者として進もうとする皆さんはプログラムの内容を忘れてはいけません。不正を行うと研究者生命が絶たれ、人生の挫折を意味します。そして多くの方々にもご迷惑をおかけすることになります。十分注意してください。

最近のトレンドとして、もう一つ重要なのが、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) の推進です。2030年までに世界を変えるための国際目標です。17の目標があり、その中に研究者のみならず企業や自治体として取り組む必要な課題が多数あります。例えば、食料安全保障、水・衛生の利用可能性、エネルギーへのアクセス、強靱なインフラや工業化・イノベーション、海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用、そして生物多様性などは、これから皆さんが携わっていくであろう重要な課題です。ぜひ、SDGsの目標を頭の片隅におきながら、しっかりと将来を見据えて、世の中の仕組みを維持・管理するとともに、発展させる努力をして欲しいと思います。

それでは皆さん、新たな挑戦の時です。2018年の今年を一つの契機として、国内のみならず、世界での活躍を期待しています。Good luck!

卒業生の皆さんへ

海洋科学部長

佐藤 秀一



御卒業、修了、おめでとうございます。思いっきり大学生活を謳歌できましたか。大半の方は出来たのではないかと、期待しています。また、「好きなことを好きなだけ、学べるものは幸せ者だよ」と東京海洋大学の校歌にあるように学ぶことができましたか。満足できず、もっと勉強したい人は進学の予定だと思います。学部卒業の方は、いままで授業等でインプットすることがほとんどだったと思います。これから就職する人は授業で得た知識ならびに卒論研究で習得した方法を利用して、アウトカム、アウトプットして下さい。大学院に進学する人は、知識のインプットを続けるとともに、それを活かした研究を行い、世界へその成果を発信して下さい。これからは発信することが非常に重要になり、評価に繋がります。いくら、インプット出来ても、社会に出てからはアウトプット出来ないと評価されません。

海洋科学部はグローバル人材育成プログラムを始めて、6年目となります。今年の卒業生は4年生になる為のTOEIC要件をクリアした初年度の学生さんです。このプログラムで培った英語力を是非とも、社会あるいは大学院に進んでから生かして下さい。

また、海洋科学部の卒業生は、日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定プログラムの修了生となります。JABEEは、技術者教育の国際同等性を確保するため、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定等の考え方に準拠した基準で審査されています。海洋科学部の教育プログラムは国境を越えて、その質の同等性が保証されています。世界で認められる資格を持っていることとなりますので、どんどん世界へ羽ばたき、思いっきり活動して下さい。またJABEEプログラム修了生は履修技術者となり登録により技術士補となることができます。さらに技術士資格試験の第一次試験が免除されますので、奮って技術士に挑戦して頂きたいと思います。10年後を楽しみにしております。

グローバル人材育成プログラムとJABEE認定プログラムの両方を修了していることを活かして、東京海洋大学を巣立ち、世界に羽ばたいて下さい。

皆さんの活躍を期待しています。

卒業生のみなさんへ



海洋工学部長
塚本 達郎

ご卒業、おめでとうございます。越中島の海洋工学部で過ごした4年間は、皆さんにとってどのような時間だったでしょうか。楽しい時間だったでしょうか、それとも苦しいことが多かったでしょうか。勉強に、課外活動に、アルバイトにと充実した時間を過ごすことができたでしょうか、それともなにか悔いが残っているでしょうか。どのような4年間であったとしても、過ごした時間は大切な経験として皆さんの中に積み重なり、皆さんを成長させているはずです。海洋工学部のカリキュラムとして用意された講義、実験、実習、演習などを履修して卒業するのですから、自信を持って次の生活に飛び込んで行ってほしいと思います。

乗船実習科に進学する皆さんは、あと半年、社会に出るまでの最後の仕上げの期間となります。海技士として仕事をしていく上で不安が残らないように過ごして下さい。大学院に進学する皆さんは、あと2年、学部では十分に経験できなかった研究活動に思う存分取り組んで下さい。きっと楽しい時間を過ごしながら成長することができると思います。就職して社会に出る皆さんは、期待もあるけど不安の方が大きいかもしれません。これからは社会人となって、仕事においても生活面においても、これまで以上に自分で考えて決断していかなければならないことが多くなります。最初はうまくいかないこともあるかもしれませんが、経験を積んで、それを基によく考えることによつて的確な判断ができるようになっていくはずですよ。自分で決めた道ですから、そこで精一杯努力をして下さい。採用した企業はもちろんですが、送り出す側としても皆さんの活躍に期待しています。これから続いていく後輩たちのためにも、海洋工学部の卒業生として誇りを持って、これまでの先輩が築いてきた東京商船大学、東京海洋大学の伝統に新しい1ページを加えていって下さい。



大学院修了生の皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長
井関 俊夫

大学院修了生の皆さん、課程修了と学位取得おめでとうございます。今後も、これまでに身に付けた知識と能力を駆使して難局を乗り越え、社会に大きく貢献されることを期待しています。

ところで、今年度も大学生・大学院生の就職状況は大変良かったようで、教員としては嬉しい限りでした。就職みらい研究所の調査によると、6月中旬での理系大学院生の就職内定率はほぼ90%に達していて、夏休み前に7割強の学生が既に就職活動を終了していたそうです。早期に研究活動に没頭できる態勢が整ったという点で、大変好ましい状況であったと思います。

一方で、皆さんの大学院での学生生活は楽な道のりではなかったのではないのでしょうか。先に就職して人生を謳歌している友人を横目に、学位取得まで地道に頑張り抜いた皆さんに心から敬意を表します。指導教員との研究に関するディスカッションでは、ある意味真剣勝負ですから、皆さんも挫折に追い込まれたことがあったかも知れません。そのたびに皆さんは立ち直り、多くのことを学び、徐々に優秀な研究者あるいは高度技術者として成長して来たのだと思います。その過程で、皆さんの研究遂行能力は磨かれ、同時に、自分の考えを理路整然と説明できるコミュニケーション能力も高くなって来たと思います。いくら素晴らしい研究を行っていても、説明が稚拙であれば、指導教員の理解や協力が得られず、目標まで辿り着けなかったかも知れません。この度、学位という形で皆さんの努力が結実したことは、皆さんがその両方の能力を獲得できたことを意味していると思います。

社会に出れば、チームワークやリーダーシップを得るために、研究遂行能力よりも、むしろコミュニケーション能力が要求されることになると思います。現に、採用面接で最も重視される能力がコミュニケーション能力であるというアンケート結果もあるようです。4月からは、良い上司や先輩に恵まれ、あなた自身が良い新人となれるように、コミュニケーション能力を発揮して頑張ってください。



卒業特集

卒業生、
修了生から在學生へ

悔いのない学生生活を！



海洋科学部 海洋環境学科4年

川村 怜央

在學生のみなさん、大学生活いかがお過ごしでしょうか。

大学生になると今までの学生時代と比較して自由度が増し、各々の責任で行動していくことが求められている年代です。そしていま、みなさんは数多くのことにふれあい、学び、経験していることだと思います。

在學生のみなさんには大学生だからこそ出来ることに挑戦してほしいなと考えています。それは人によって異なりますが、授業や部活動、ボランティアまたは旅行など自分が今したいと思うことを率先して行うことは今後の活動において大きな財産になります。

私の場合は、大学での休暇期間を利用して海外旅行に行くことがしばしばありました。私が行く先々の場所では到底日本では考えられない食生活や文化が根付いており、大学にいただけでは気付かないことも多く、日本に戻ってきてからの生活の価値観について様々なことを考えるようになりました。またあまり観光客が行かないような場所へ行き、日本では経験できないようなことに挑戦したことも自分の成長の糧になっています。

こうしたことは旅行に限った話ではないですが、自由が利くいま、自分が本当にやりたいことに挑戦して、悔いの無い学生生活を過ごして行ってほしいなと思います。今振り返るともう少し学業に興味を持って勉強していればなと考えていますが、後悔先に立たず。

在學生のみなさんは好奇心に満ち溢れた悔いの無い学生生活を過ごしてください。

卒業生から在学生へ

海洋科学部 海洋政策文化学科4年

新海太斗

在学生の皆さんはどのような大学生活を送られていますか？ 1、2年生は授業で忙しく、3年生は進路が気になってくる時期かもしれません。そのような日々でも、人生において大学生活は新しいことを体験できる貴重な時期です。在学生の皆さんには、新しい体験をたくさん経験して頂きたいです。

海洋大は、他の大学と比べてもフィールドワークが多く、また立地的にも学外へ足を運びやすい、とても恵まれた環境です。そうした環境をどんどん活用してもらいたいと思います。

私は今年7月、研究室の行事として沖縄県で開催されたサバニ帆漕レースに参加しました。このレースはサバニと呼ばれる沖縄の伝統木造漁船を使って行われ、櫂（ウェーク）と帆に受ける風の力のみで航行するものです。私は、大会のプレレースとして開催される第6回マリリンカップに出場しました。モーターの付いていない船で海に出ること自体が初めてで、非常に緊張しましたが、なんとか18艇中14位（タイム：1時間10分10秒）で完漕することが出来ました。海の上では海風、潮流、天候、あらゆる要因が航行に影響を及ぼすことを、身をもって知り、それと同時に、昔の沖縄の漁師は命がけの状況で、協力し合いながらサバニ漁業を行っていたのだと実感しました。

海洋大にはサバニに限らず、多くの海に関する現場に出る機会があります。大学で海のことを勉強する道



右から2人目が本人（写真提供：蓬郷尚代）

に入った皆さんですから、是非、実際の現場を経験してみましょう！

在学生の皆さんへ

海洋工学部 海事システム工学科4年

宮 大生

在学生の皆さんには大学生活4年間を通して、たくさんの経験をしてもらいたいと思っています。私は東京海洋大学での4年間で本当にたくさんの経験をすることができました。1年次にたくさん単位を落としてしまって翌年から苦しい思いをすることになったり、遠泳実習でたまらない達成感を味わったり、後悔するようなこともたくさんありましたが、すべてひっくるめて大学生活を振り返った時の良き思い出です。特に乗船実習は他の大学ではなかなか経験できるものではない、東京海洋大学



2年次乗船実習で訪れた石川県金沢にて 筆者は中央

ならではの実習です。私は人と違う経験ができることは非常に貴重な機会であり、大切な時間だと思っています。たとえ船乗りにならない方でも、こういった実習等にぜひ積極的に取り組んでほしいです。

もちろん学業以外にも、部活やサークル、アルバイトなどに時間をさけるのも、時間のある大学生だからこそできることだと思います。私も接客のアルバイトでいろんな人と接して刺激を受けることができ、初めて給料を受け取ったときは社会人の入り口に立った気分にもなりました。学業以外の経験も豊富に積むことで考え方に幅ができるはずです。

大学生とは失敗が許される最後の期間です。たとえ失敗しても無駄になることはないので、限りある時間をめいっぱい有効に使い、失敗を恐れずに積極的にいろんな物事にチャレンジしていったら、充実した大学生活を過ごしてください。

卒業生から在學生へ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年
連 紘 樹

在學生の皆さん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。何かに熱心に取り組む、充実した日々を過ごしている人もいれば、物足りないような気持ちで毎日を過ごしている人もいるでしょう。私の学生生活を振り返ると後者のような時間が若干多かった気もしますが、様々な環境の変化や、先生方や友人にも恵まれ、充実した4年間であったといえます。

現在の生活に満足している人でも不満を持っている人でも、今後数年以内には何かしらの変化が必ず訪れます。就職、進学、中には留学や起業をする人もいますし



卒業旅行で訪れたローマにて 筆者は右から2番目

よう。私生活でも、新しいことを始めたり、新しい友人が出来たり、喧嘩をしたり、恋人が出来たり、別れたり、家族が増えたり、減ったり、背が伸びたり、縮んだりすることもあるでしょう。そういった変化には大なり小なり不安が伴います。変化の後のことは誰にもわからないので、そこに恐怖を感じるのは当然の感覚です。それでもその恐怖と戦いながら変化を受け入れ、適応していくことで成長していけるのだと思います。そして変化に恐怖を感じるからこそ、変わらないものを大切に、今を精一杯生きていけるのだと考えています。

これから皆さんにも様々な変化が訪れるかと思いますが、こんなページまで読んで下さっている皆さんなら、きっと上手くいきます。またいつかお会いでき、変わったことや変わらないことをお話できる日を楽しみにしています。素敵な日々をお過ごしください。

経験

海洋工学部 流通情報工学科4年
樋 川 恵利那

就職活動をする中で、大学生活は社会に出るための準備期間だったのではないかと思うことが多々ありました。例えば、沢山ある企業の中から自分が働きたい企業を選ぶとき、自分の夢は何なのか、どうしてこの業界を選んだのかを考えながら選択します。採用面接では、ストレス解消法や苦手な人との接し方、困難な課題を乗り越えるための手段を聞かれることがあります。それらの答えは、自分の経験からしか語ることが出来ません。私は質問されるたびに、経験しておいてよかったこともあれば、もっと色々なことをやっておけば良かったと後悔したこともありました。そのため、在校生には色々なことを経験してほしいと思っています。



海外インターンでお世話になった松井さんとの写真

私が一番経験して良かったと思っていることは、大学で募集をしている海外インターンシップです。授業で物流を学んでいるつもりでしたが、実際に海外の現場を見て、物流についての考え方が大きく変わりました。そして、この経験を機に、私は物流に携わる仕事をしたいと考えるようになりました。

何かをやってみたいと思った時に、探してみると意外と機会はあるものだとは私は体感しています。まだ、何もしていないのならば、機会を掴むために、まずは自分から行動してみてください。大学生生活の4年間は本当に一瞬です。自分のことを知るために、一つでも多くのことを経験してください。そして、少しでも多くのことを学んでください。後悔のない大学生生活を過ごせることを願っています。

新入生の皆さんへ

海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻2年

松井 絵美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今までは受験勉強から開放され、自分のしたいことがたくさんできて、幸せの真っ只中のことでしょうか。私は皆さんと少し違って、アメリカの州立大学を卒業後に改めてこの大学を受験しました。動機は環境と共存する海洋や生物の研究をしたいとの思いでした。入学して間もない皆さんも私と同様に、海やその生物などに興味をもち、この大学を志望されたと思います。また、将来の夢も大きく膨らんでいることと思います。

しかし、私は学部生の時に履修したエネルギー工学の講義を通じて、持続可能な低炭素化社会の構築に興味を持ち、工学の世界に足を踏み込むことになりました。大学院での私の研究では、新たに開発した省エネ



環境エネルギー国際学会（スロベニア、2016年）での発表シーン

ルギーシステムにより、2030年までに日本だけで1億トン以上ものCO₂削減が可能となることを実証しました。これは、都市の熱環境が悪化する昨今で、最終的には海洋にも大きなインパクトを与えることが予想され、その抑制に大きく貢献するものと思います。

この大学の特徴として、幅広い分野の研究ができることが挙げられます。今後、将来の進路に迷うことがあると思いますが、気になる授業などがあったら積極的に他分野の研究室などを訪ねてみてください。

最後に一つアドバイスを。英語は必須のツールになります。研究成果は、国内だけでなく世界中に情報発信していくことが必要です。在学中の国際学会での発表や講演では、世界中の研究者らと議論をすることもできました。ぜひグローバル・コミュニケーションのスキルを身に付けてください。皆さんの今後のご活躍を祈っています。

百聞は一見に如かず

海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻3年

秋田 晋吾



品川キャンパスのメインストリートに林立する樹々が織りなす四季を、何回見届けたでしょうか。2009年、海洋科学部海洋生物資源学科に入学してからあっという間に月日は経ち、気付けば9年も本学に在籍しています。特に、研究室に配属されてからは、充実した日々が続き今日までが一瞬で過ぎ去ったように感じています。

研究室に所属してから海藻の研究を始め、私は、積極的に磯に出かけたり海に潜ったりすることを心がけています。海に出かけ海藻の生きた姿を観察し、生育する場所や季節、質感や大きさなどに触れることで、たくさんの疑問を感じることが出来ます。疑問に感じたことを、文献で調べたり研究室で実験したりすることで、多くの知識を身につけることができただけでなく、研究成果も得られました。「百聞は一見に如かず」とよく聞きますが、これには続きがあるそうです。「百聞は一見に如かず」、「百見は一考に如かず」、「百考は一行に如かず」、「百行は一果に如かず」。自分の目でよく見て考え、行動し、成果を出すことが重要という意味だそうです。まさに大学院生へ向けられた言葉だと思います。大学院在学生の皆さんには、それぞれの研究対象をよく観察し考え、たくさん実験し、より良い研究成果が得られることを期待しております。

最後に皆様の大学院生活がさらに実りのあるものとなり、皆様の夢が実現しますことを祈っております。

卒業特集

卒業する先輩留学生から在學生へ

新入留学生に向けて

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

呉 袖 天

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。留学生活はどうでしたか？日本に来て戸惑うことも多くあると思いますが、日本語だけでなく、日本文化への理解も重要だと思います。知識を得ることはもちろん大事だが異文化コミュニケーションも留学の醍醐味と思って留学生活を楽しみましょう！



実験風景

今中国では海洋科学への関心が高まり、海洋科学の研究が進んでいます。みなさんが知っている通り、海洋の面積が広く、まだまだ開発されていない部分も多く、鉱物資源や生物資源など大変価値を持っています。私は海洋生物資源学科に所属していて、四年次では効果的な水産用ワクチンの投与方法について研究しています。水産資源は無限ではない上、世界中から見ても水産物の消費量が高くなっています。私は水産養殖業が非常に大きな可能性を持つと考えています、そこで養殖業ならではの問題、つまり病気への対策について興味を持つようになりました。さらに、海洋大での勉強を経て、食品安全についても関心が高まりました。養殖業では生産量だけではなく、消費者に対して安心できる食品を提供するのがもっとも大事だと思います。そこで養殖業から病気対策ができるワクチンと安全な食品を提供できる投与方法について深く研究したいと考えました。

みなさんも東京海洋大学を志望して、きっと海洋科学について何らかの思いを抱いているでしょう。ですが、具体的に何を勉強したいか、何を研究したいかをまだ決めていない人も多くいると思います。私は将来に迷うことも大事だと思います！海洋大では海洋に関する授業が幅広く、さらに実習授業が多く、さまざまな分野で貴重な体験ができると思います。みなさんもぜひいろいろな知識を学んで、より深く研究したい内容を探しましょう！みなさんが有意義な留学生活を過ごせるように願っています。



後輩へのメッセージ

海洋科学技術研究科 食機能保全科学専攻2年

劉 欣

思えば、自分がちょうど二年前のこの時期、東京海洋大学の進学を決めて、大学院受験に向けて準備を始めました。あの時、自分はまた新たな道へ進むことへの期待と共に、院生生活や研究内容などに対する不安を抱いていました。しかしあっと言う間に大学院の生活は一年半が過ぎて、もうすぐ私も卒業します。

私が所属する食品微生物学研究室は食品に関する微生物の研究を行なっています。食中毒菌はもちろん、人体に良い影響を与える乳酸菌も研究しています。自分は元々この分野に興味があって、研究活動もすごく面白いと思います。院生生活はほぼ研究室で実験を中心にしています。講義が少ない一方、自分から研究の方法を調べて、より積極的に知識を身につけます。最初は勉強することが多くて、少し追いつかないと感じ

ますが、きちんと計画を立て、自分のペースで少しずつ勉強して、やっと順調になりました。

また、研究以外の学校生活もすごく楽しかったです。研究室に入ったばかりの頃、自分は何も分からなくて、とても不安だが、先生は親切に教えてくれたり、研究室の仲間は助けてくれたり、留学生系の先生たちもいろいろアドバイスをくれました。その暖かい人たちのおかげで、私は心配なく大学生活を送ります。そして、研究室は毎年歓迎会やゼミ旅行などのイベントを行います。そのイベントにより、日本人学生また研究室ほかの海外留学生との交流が深まりました。

東京海洋大学で勉強した時間はそんなに長くないが、私は多くの事を学び、たくさんのいい経験をできました。在学の皆さんも自分のやりたいことを見極めて、目標に向かって突き進んで、有意義な学校生活を送ってください。



退職の年を迎えて

退職なされる

教職員の方々より一言

二兎を追う者は・・・



食品生産科学部門 教授
大島 敏明

40年前、教授のお言葉は絶対であった修士課程学生時代の話です。毎日の実験を予定通り終えることが難しく、また、指導教授に突然呼ばれて実験経過報告なんてことはよくあり、一度“捕まる”と逃げ出せなくなることが当たり前でした。教授より先に帰るなんてことはあり得ません。スマホなんかない時代でしたから、付き合っていた女性との待ち合わせを結果的にすっぽかすことが重なり、破局を迎えました。

現代の学生の多くは感心するほど己の都合を優先すると私は思っています。それが、学習なり、研究なりの都合であれば納得できるのですが、バイトが入っています、友人と約束があります等と訴えられると、私のテンションは一挙に奈落に落ちます。

皆さんには大学での研究の面白さに気づいてもらいたい。そのためには、実験系であれ非実験系であれ、研究テーマと格闘する時間が不可欠なのです。格闘ですから、生半可な取り組みでは勝てません。当たり前なのですが、研究テーマと格闘する密度が濃いほど、研究テーマを打倒する機会が高まります。その中で、何か面白いことに出会えた人こそ、その学生としての生き方は称賛に値するのではないのでしょうか。二兎を追う者は一兎をも得ず。皆さんは、一生のうちの僅か数年間を大学での学習・研究に捧げる覚悟がありますか。それができた人こそ大学生であり、人生を自信と

誇りをもって過ごしていけるものと確信します。そのような人のために大学はあるのです。大学を去るにあたり、そのような心から尊敬できる学生に出会える機会も少なくなるのが残念です。これからはどのような兎を追うのか、暫く格闘しなければなりません。



リアリティのある水産教育・研究を



食品生産科学部門 教授
岡崎 恵美子

(独)水産総合研究センター(現(国)水産研究・教育機構)中央水産研究所から本学に赴任して7年間、大変お世話になりました。教職員の皆様や学生諸氏にはあらためて厚くお礼申し上げます。

赴任直後の3月、東日本大震災が発生したことが、以降の活動の方向性を決定づけました。直後に学内で立ち上がった被災地復興プロジェクトを皮切りに、農林水産省や文部科学省などの復興プロジェクト研究に関わる多くの機会を頂き、真剣に取り組みました。そのような中で、私の本学での目標は、学生達に少しでも水産をリアルに感じ、問題意識を持ってもらうことではないかと思うようになりました。

授業では、現在の水産業界の現場で生じている問題や、その解決のための取り組みについて、写真や映像なども駆使してできるだけ具体的に伝えるよう努めました。また、学生が実際の産業現場に足を運び、そこに関わ

る方々と直接意見交換できる機会を持てるように努めました。「先生の授業を受けて、海洋大学生らしい知識を身につけることができました。将来を考えるきっかけになった。」等の声を頂くと、未熟な自分にも何か伝えることができたのかなとの気持ちになります。

また、業界との連携にも努めました。例えば、全国蒲鉾組合から、農林水産大臣賞を選定する「全国かまぼこ品評会」の開催に合わせ、「かまぼこ展示会」を本学で開催したいので協力してほしいとの申し出を受け、前例のない取組みに対する学内のご理解を頂けるよう奔走しました。全国からの何百もの練り製品を実際に試食できる場として定着することができましたが、このような試みが、教職員や学生の皆さんにも水産加工品を身近に感じて頂ける貴重な機会になったのであれば、非常に嬉しく思います。

今後残された時間は多くはありませんが、今後の水産業界を支える東京海洋大学としての人材教育に少しでも貢献できるよう、リアリティのある水産教育・研究を引き続き目指していきたいと思っています。

母校の学生の皆さんへ



海洋電子機械工学部門 教授
明 野 進

東京商船大学を卒業して39年、一昨年3月に教員として母校で働かせてもらえることになり、不安半分、興味半分で着任しました。もう退職と言っても私自身がピンときていませんが、これから社会人として世の中に出ていく母校の学生の皆さんに、メッセージを送りたいと思います。まあ、そんな考え方もあるのかと思って聞いてください。

●仕事にやり甲斐を見つけてください。社会に出て、自分の好きな仕事ばかり出来るわけではありませんが、同じやるならわくわくする仕事もしたいものです。何事にも前向きに積極的な姿勢で臨むことで、仕事にも自分でやり甲斐を作り出せます。

●自立した人間になってください。仕事ばかりではなく人生には何度か苦難や岐路が訪れます。その時、生活の面でも仕事の面でも、自分で何とかやっていける自信があれば、乗り越えていく覚悟を決められるものです。

●最後は人間性が大事です。人間は一人では生きられ

ませんし、一人は寂しいものです。やはり、家族や友人、その他の様々な人脈が人生を楽しく、豊かにしてくれます。そういった人と人とのネットワークで大切なのは、最終的には人間性だと思います。

あと、2年間は本校でお世話になろうと思っていますので、よろしくをお願いします。

退職の年を迎えて

海洋環境科学部門 教授
坪 井 堅 二

私は長野県に生まれ山に囲まれて育ちました。子供のときから星を見るのが好きで、高校の天文クラブでは近くの志賀高原や菅平等で星の観測をしていました。今でも故郷の天文同好会に入っていて帰郷時に観測会に参加しています。大学では実験が苦手で嫌いだったので数学科に進学しましたが（数学科の学生には私のような実験嫌が多い）、代数学、幾何学、解析学、応用数学の4分野に分類される数学の中で幾何学を専門としたのは「時空の幾何学」と呼ばれるアインシュタインの相対性理論を理解するためでした。元々「宇宙」という言葉は淮南子（えなんじ）という紀元前二世紀に中国で編集された論集にある言葉で、「宇」は空間の広がり「宙」は時間の広がりという意味していると言われています。つまり、「宇宙」という言葉は元々相対性理論の「時空」と同じ意味なのです。4年生の卒業研究で、宇宙に興味がある学生と一緒にブラックホール、惑星の近日点移動、宇宙膨張といった相対性理論の問題、三天体運動やラグランジュ点といった天体力学の問題の勉強をしたのは楽しい思い出でしたが、私が数学科の教員だったらできないことでした。

私は10歳のときに初めて海を見ましたが、そのとき以来今でも海を見ると心が動かされます。そのような私が海の大学である本学に勤めることができたというのは実に幸運なことでした。この後2年間の再雇用期間を経て故郷の山に帰りますが、クルージングで学生達と廻った東京湾の光景、海の香り、風の音は一生忘れません。

その日、その時、



海洋環境科学部門 教授

山崎 秀勝

本学に赴任したのは、1993年10月です。それまで足掛け14年間、北米で研究生活を行っていました。赴任した当時は私も30代でしたので、いつか退職の日を迎える時が来るなどとは考えもしませんでした。赴任したばかりでしたが入試のお手伝いをさせていただき、入試係の部屋に入ったところ、「学生は入ってきてはいけません。」と言われたことも遠い過去の逸話です。それまで、北米でのやり方に慣れていたので日本のやり方についていけないで戸惑ったこともありましたが、いつの間にか日本の制度にどっぷり浸かり、これによしと思えるようになりました。北米の制度と日本の制度には、それぞれ良い点と悪い点があります。現在、文科省が目指している方向は北米化に向かっていくようになってきています。こんなバナナ(inside white & outside yellow)の私が言うのも変ですが、日本には日本のやり方があって良いのではないのでしょうか。

本学に来てからたくさんの優秀な学生に恵まれ、様々な研究に花が咲きました。特に、微細構造の計測装置をはじめ、様々な海洋の測器を開発することができたことは大変誇りに思っています。また、これらの測器を使って国内外の海で観測することができたことは大変恵まれていたと思います。さらに今年度までJSTからCRESTのプロジェクトをサポートしていただき、これまでにないケーブルオペザバトリやAUVを作ることができたことも幸せであったと思います。このような大きなプロジェクトが成功したのは、私が内外の共同研究者と学生に恵まれていたためです。私のこれまでの成果はこの人たちが抜きには考えられません。なんとラッキーな人生だったと思っています。

しかし、その時は訪れます。私の他界した父が酔っ払うとよく言っていた言葉があります。「いつまでもあると思うな、親と金。ないと思うな、運と災難」。今考えてみれば含蓄のある言葉だと思えます。「災難」はいつ起こるか分かりませんが、常に注意してください。「運」は必ず回ってきます、その時にこの「運」を掴むのです。後続の若い研究者および卒業生に「運」が巡ってくることを祈ってここで筆をおきます。これまでありがとうございました。

時間という可能性



海洋資源エネルギー学部門 教授

武田 誠一

1974年春、東京水産大学に入学した頃、魚獲りに必要な漁船運航に求められる種々のことを学ぼうとしていた。今、こうして定年退官のための文章を同じ大学で記事など頭の中にはまるで無かったのである。入学してから、クラブ活動、アルバイト、そして勉強をやる一方、乗船漁業実習に参加し水産専攻科を修了までの5年間、品川は勿論のこと、館山や各地の港で出会った方々と交流を持てたことは今でも大事なことのひとつとなっている。

大学生に戻れたら、今度はあれをしよう、これもしようと思えるのだが、では実際の学生時代を思い出せば、結構やりたいことはやっていた訳で有り、やはりこれからの時間をどうするかの方が面白いのではないかな。

現在の歳、63歳から学生達を見ればザックリ40年余の時間が有る。これからの私自身の可能性と、学生達の可能性のどっちがどうだというのでは無く、学生達には間違いなく使用できる時間がそこに有るのである。当然と言えば当然なのだが、こればかりは仕様が無い。学生達は時間が有るということをもどのように考えるかは勿論自由なのであるが、羨ましい限りである。

多くの方々に迷惑をかけながらも、卒業生を見送って来た私にとって、若いということの色々な意味での面白さ、凄さなどをほんの少しでも知って欲しいと切望します。貴方達のその可能性って、やっぱり羨ましいなあ！

退職の年を迎えて



海鷹丸甲板長

佐藤 匡

このたび、ついに定年を迎えることとなりました。こうして無事にこの日を迎えることが出来たのも、船舶職員や教職員、大学職員、乗船学生の皆様に恵まれたおかげです。改めて皆様に心より感謝申し上げます。

数々の甲板長の定年退職を見送ってきた私が、見送られる側になる日を迎えたこと、非常に感慨深く感じております。この42年間、各旧船も含め海鷹丸、神鷹丸、青鷹丸と様々な船に乗ってきました。日本周辺のみならず、憧れのハワイ航路や南氷洋、ペルシャ湾、その他、たくさんの寄港地に色々な思い出があります。

また、一昨年度や昨年度は、甲板長として新船の神鷹丸に携わることが出来ました。新船運航開始前は様々な検査や試運転、備品等の収納を行い、運航開始後は新しく行くことになった漁業・観測の作業方法の確立や、使いやすい作業環境作りを行ってきました。これは初年度の宿命なのですが、どれも大変根気の必要な作業でした。まだまだ作業方法や環境には至らないところがあり、改善しなければならぬところがあったでしょうが、それは頼もしい後進たちに任せたいと思います。

定年後もまだ大学でしばらくお世話になるかと思いますが、どこかで見かけたら是非声をかけてください。最後に東京海洋大学と皆様とのさらなるご発展とご多幸を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

退職の年を迎えて



海鷹丸 操機長
今野 務

昭和52年12月12日付で、縁あって本大学（旧名 東京水産大学）の神鷹丸Ⅱ世に乗船し、ちょうど40年が過ぎ去りました。

当時は、司厨員（ボーイ）採用で就職し、3年3ヶ月勤務した後、自分の望んでいた機関部に転属となりました。そして、本大学の三船および実習艇ひよどりにて乗船勤務を続け、現在に至りました。

山形（庄内）の田舎出身だった私は、当時ご飯など、余ったものを結構捨てている光景を見て、船ではいろいろもったいないことをするなと思っていました。

いろいろ思い出はありますが、海鷹丸Ⅲ世での遠洋航海中、当時の宝谷船長が、船内放送で昭和天皇崩御をしめやかに伝えられたことや、世界一周航海の途中で、トルコのイスタンブールに停泊したおり、湾岸戦争の影響でやむなく、引き返すことになったことが特に印象に残っています。

また、現在の海鷹丸Ⅳ世で南極観測に向かう途中、大時化の中ブラックアウトが重なった時には、本当に死にたくないと思いました。

この文章はマグロ延縄実習の途中に書いておりますが、これからオーストラリアのフリーマントル、南極、ホバートを経由して平成30年2月19日に東京に帰港することになります。

最後に、長年支えて頂いた乗組員の皆様、ならびに教職員、実習生の皆様のご芳情に対しまして、深く感謝申し上げます。

これからの東京海洋大学のますますのご発展と皆様方のご健勝をこころからお祈り申し上げます。

あつという間に定年

海鷹丸 司厨長
福島 晃一

もう定年だって！早いわー 自分で解ってはいるけれど もう60歳だって！若かった時から比べれば、腕力も体力もかなり落ちたし、情けないことに、街で若い女性にぶつかられてよろけたりもする、でも、仕事はまだまだやっていく自信は有るのになー

私は料理を作ることが小学生の頃から割と好きでした。インスタントラーメン（札幌一番 塩）とか炒飯、雑煮など母親がいない時自分で作ってました。

私が料理を一番勉強出来たのがパレスホテルと云う所でした。勉強が大嫌いで大学に行かなかったけど一生懸命勉強しました！

色々な所で仕事をして50歳を過ぎて転職せざるを得なくなり、ふと目に留まったのが船の仕事でした。にっぽん丸、ふじ丸、会社は違うけれどクルーはどちらにも乗船していました。私がふじ丸に乗船しているときふじ丸の売船が決まり、キャプテンの紹介で海洋大学に入社。勉強が嫌いで大学へ行かなかったのに仕事してしまいました！

この学校の司厨部で仕事をしてみて、色々な事、今までとは違うことが多いですが楽しく仕事をさせて頂いております。

学生さんや先生方、乗組員が少しでも満足して頂ける様最後まで頑張らせて頂きます

皆さん、きっと人生もあつという間ですよ！

大学院紹介

海洋生命資源科学専攻 / 食品流通安全管理専攻 / 応用環境システム学専攻

海洋生命資源科学専攻 — 博士前期課程 —

海洋科学技術研究科 海洋生命資源科学専攻主任/教授
坂本 崇

海洋生命資源科学専攻では、海洋生物の生理・生態を基礎として、それら生物が海洋で生活できる特殊な仕組みの解明やその特徴を活用した生物資源の管理と修復保全、収穫システムや増養殖生産、環境計測や有益環境の創出等、生物生産に係わる総合的な高度利用に関する学理と技術を教育研究しています。本専攻には、3つの専攻分野（水圏生物科学、生物資源学、海洋生物学）があります。

水圏生物科学専攻分野では、海洋生物の生命現象の解

明とその生命システムなどの理解を通じて、絶滅危惧種の増産も可能にする「借腹」種苗生産技術の開発、環境共存型養殖のための飼料開発、完全循環型の養殖工場の設立、海藻の特性や機能の有効利用とその応用による有益な海洋環境の創出を目指す技術開発、分子育種や分子疫学による生物生産の安定化技術開発、極限環境に生息する生物の特性利用技術開発、生物機能を利用した環境計測や修復技術の開発等を行い、生物生産の高度利用への応用が可能な教育研究を行います。

生物資源学専攻分野では、海洋生物の個体群ダイナミクスや集団遺伝、資源培養、行動・成長・生残・回遊等の生態特性および漁獲過程等の学理を基礎として、環境と調和した海洋生物資源の持続的利用と生物多様性の維持保全に関する分野を対象とします。具体的には、種の分化や系統進化、資源の系群構造の解明と増殖保全、栽

培漁業や漁業・遊漁の影響評価、生態系や地球環境と資源変動との関連、混獲防除や選択漁獲といった合理的な漁獲技術の開発を通じて、資源開発と管理システムを構築し、生物資源と人間の共生へ応用するための教育研究を行います。

海洋生物学専攻分野では、水産物だけではなく、海洋の鉱物などの多様な海底資源の有効利用を可能にするために、水産学と工学とが融合したバイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術について、基礎から応用までを幅広く理解し、漁場環境の保全ならびに食品として安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについて教育研究を行います。

最後に、自身が所属している水圏生物科学専攻分野の水族養殖学研究室について紹



国際会議で訪れたサンディエゴ・ラホヤの夕暮れ

介します。現在、ブリ、クロマグロ、ウナギなどでは、養殖業に用いられる種苗のほとんどが天然種苗であり、資源保護の観点などから人工種苗への転換が求められています。さらに、耐病性や高成長などの優良形質を保持する人工種苗の作出が期待されていることから、天然魚から短期間で優良形質を保持する人工種苗を作出する育種技術開発が必要とされています。また、養殖業の多くは、海面を利用した飼育システムで行われており、養殖魚飼育による環境負荷と魚病被害の軽減が可能な閉鎖生態系循環式の養殖システムが期待されています。水族養殖学研究室では、近年目覚ましい進展をしている次世代ゲノム情報解析技術を活用し、養殖魚のゲノム情報を用いて、天然魚から優良形質を保持した人工種苗を分子育種するための研究開発および閉鎖生態系循環式など効率的な養殖システム構築のための技術開発を行っています。

食品流通安全管理専攻 — 博士前期課程 —

海洋科学技術研究科 食品流通安全管理専攻主任/教授
濱 田 奈保子

食品流通安全管理専攻10年間の足跡

国立大学法人東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科食品流通安全管理専攻は2007年に主に社会人を対

象とする専攻として設立され、設立10周年を迎えました。昨年度3月期で修了生が100名を超え、食品業界における存在感が高まるとともに、ネットワークも多方面に、また、グローバルに広がっています。これは、これまでに本専攻が多方面のご協力を得ながら、真摯に取り組んできた教育・研究指導の成果と、修了生の意欲的な取り組みが大きな原動力となったことは間違いありません。この節目の年を祝うべく、今年、2017年8月6日に「食品流通安全管理専攻設立10周年記念式典」を開催させていただきました。本稿では、式典で当方が紹介した本専攻の10年間の歩みについて、簡単にご紹介させていただきます。

●多様な入学者

本専攻は、大学等で生物学、化学、工学等の理系を履修した方および経営学、経済学、法学等の文系を履修した方の食品流通安全管理者としてのステップアップコースの大学院として設置されたため、食に係る多様な人材が入学してきました。具体的には食品製造業、飲食物品小売業、食料品輸送・保管業、食料品関連の検査・試験機関職員、食品関連コンサルタント業務、さらには行政機関から体系化された知識を求めて学びに来られたケースもあり、食の安全・安心について様々な角度から議論することを目指した当初の専攻の教育目的に沿った人材が集まったといえます。そのような多様な人材が本専攻を修了し、それぞれの職場で業務を行う際に本専攻で学んだことが役に立った、あるいは



設立10周年記念式典全体写真

は本専攻で取得した資格を生かしているという感想が多々寄せられており、教育効果は確実に出ていると思われる。最近では、修了生が兼任教員（非常勤講師）として採用され、活躍される方も出てきており、ロールモデルとして、後輩指導にあたっていただけのものは大変有難いことです。

●各種教育コースの運営

本専攻では、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO 22000規格の審査員研修（食品安全マネジメントシステム論）を開講しています。この科目はISO 22000審査員補になるための登録申請要件の一つで、授業は、ISO 22000研修機関と提携して行っています。本専攻修了後に、本資格を取得することにより、審査員として活躍される方も増え、審査員業界でも本専攻の知名度は広まりつつあります。

学内教育コースとしては、現代GP*（「食品流通の安全管理システム専門技術者養成コース（学部および大学院）」の運営を引き継ぐと同時に、「HACCP管理者コース」および「食品流通ロジスティクス実務家養成コース」の2つの教育コースを新設し、各学部の全学科、全専攻学生を対象とした教育コースを提供してきました。

*現代GP (Good Practice) とは現代的教育ニーズ取組支援プログラムを指し、文部科学省が選定した教育の質向上に向けた大学教育改革の取組です。

「HACCP管理者コース」の授業は平成19年の設立当初から50名を超える受講者でしたが、最近のHACCP義務化の影響もあるのか、今年度は受講者が90名近くとなり、全学的にニーズの高い教育コースとなっております。

また、食品流通ロジスティクス実務家養成管理者コースの修了は、我が国におけるロジスティクス啓発・人材育成機関である公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会が実施する「ロジスティクス基礎講座」の受講修了と同等とみなされ、同協会実施の「物流技術管理士補スクーリング」を修了すれば「物流技術管理士補」が同協会から授与されます。

さらに、研究・実務融合による食の高度職業人養成プログラムにおける広域コースにおいても、食品安全管理専攻の特色授業といえるケースメソッド授業を提供していますが、本専攻のケースメソッド授業を受講したことにより、就職活動におけるグループ面接に非常に役に立ったという声が他専攻学生からも多く寄せられています。

平成22年度からは食品流通安全管理専攻の博士後期課程に対応するコース「食品サプライチェーン安全管

理コース」を立ち上げました。本専攻を修了した学生が博士後期課程に進学する割合は毎年25～30%と高く、博士後期課程入学者が減るなかで、一定の役割を果たしていると思われる。平成25年には、ひらめきときめきサイエンス（日本学術振興会）事業と共同開催で、「食品のトレーサビリティってなあに！～食の安全と安心のために～」と題して、「食品サプライチェーン安全管理コース」の模擬授業として、サイエンスカフェを開催しました。

●学界への発信

本専攻における新たな食の安全・安心教育と食の分野におけるケースメソッド授業の特色について日本リスク研究学会等において報告し、注目を集めました。これまでは、経営学や法学分野でしか例がなかったケースメソッド教授法ですが、本専攻におけるケース教材作成と授業は食品安全分野における初めての事例となりました。その後、本授業方式は本学の環境分野において広がりを見せているだけでなく、学外でも高い評価を受けており、他大学からも多くの見学者を受け入れています。また、厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「対象別の適切な食品安全情報の教材と食品安全ナビゲーター人材養成プログラムの開発」に関する研究の中でも新たなケースメソッド教材を作成し、大学外へ発信しました。

●行政との連携

本専攻は、人事院行政官国内研究員の派遣大学院の一つに指定され、[他は東京大学大学院、一橋法學研究科、政策研究大学院大学等（人事院研修調整課資料より）が指定]、省庁からの社会人入学も増えています。これらを受けて、アサヒ・ドットコムが紹介する社会人大学院特集において特色ある大学院[「食」のMBAとしてケースメソッドも導入。文理融合でリスク管理のプロフェッショナルを養成（<http://www.asahi.com/ad/clients/daigakuin/listen/vol13.html>）]として取り上げていただきました。

国立大学はますます厳しい状況を迎えておりますが、専攻設立に関わった学内外の多くの方々、修了生の思いを受けとめ、関係者が一丸となって、次なる10年に向けてさらに大きく羽ばたけるよう、努力して参りたいと思っております。



応用環境システム学専攻 — 博士後期課程 —

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻主任/教授
竹本孝弘

本学大学院海洋科学技術研究科博士後期課程には、応用環境生命学専攻と応用環境システム学専攻の2つの専攻があります。

応用環境システム学専攻では、海洋環境の解明・利用・保全に関する学理と技術に関連する学際領域の開拓を目指し、海洋環境の変動機構の解明、物質の移流拡散の計測と予測、資源探査技術の創出、海洋生物と環境の関わり等の解明、安全で効率的な海上交通輸送システムの構築、先端的推力システムの開発、海洋管理政策の提言等を教育研究の対象としています。海底の資源、海中の海洋生物、海上・陸上における輸送、衛星を利用した交通管理といった非常に幅広い分野を研究するため、海洋環境学、環境保全システム学、海洋利用システム学、ロジスティクス、海洋機械システム学、産業政策文化学、海上安全テクノ

ロジー、海洋探査・利用工学の8つの専攻分野で構成されています。一言で言えば、海底から海上・陸上、そして宇宙までが教育研究の対象ということです。また本専攻は、研究室での実験だけでなく、本学の所有する練習船や、水圏科学フィールド教育研究センターといった施設を利用した研究が多いのも特徴です。

本専攻の定員は1学年21名で、現在は82名が在籍しています。後期課程の修学年限は3年ですが、博士論文作成のハードルは高く3年で修了できない者が多くいるため、在籍者数が多くなっています。入学者のうち約半数は前期課程からの進学者で、ほとんどが本学の前期課程から進学してきます。また、社会人学生も約3割を占めています。仕事と研究を両立させるのは非常に困難を伴いますが、長期履修制度を利用したり、仕事が忙しい時期には休学も挟んだりしながら、博士の学位取得を目指しています。

本専攻に入学して何をするのか？ それぞれの専門分野はあるとしても、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を主体的に実施する能力を身につけなければなりません。そのためには、

基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度に専門的な知識が必要となります。また、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性も求められます。そして最終的には、海と人間の共生の観点から総合的能力を持ち、指導的な立場に立てる人材となることを目指してもらいたいと思います。

修了後はどのような分野に進むのか？ 博士課程を修了した学生は、その高度な専門知識を活かして、教育・研究職に就く割合が高く、教育学習支援業と学術研究、専門・技術サービス業が就職先の6割以上を占めています。

本専攻の特徴、現状を簡単に紹介しました。博士前期課程から後期課程への進学は、時間的・経済的な理由もあり、本学ではまだ十分ではありません。これからも当専攻への入学を希望する学生が増えるように、そして専攻に所属する学生が十分な研究活動ができるように、様々な環境整備を進める必要があると考えています。



五島福江の洋上風車



グローバル人材育成プログラム

新たな世界

海洋科学部 海洋生物資源学科2年

手塚 旭美

私は、夏休みに海外探検隊というプログラムを利用して、1ヶ月の間、台湾に滞在しました。

このうち、3週間を台湾大学・海洋研究所のティナ先生の研究室で過ごしました。ティナ先生に与えられた研究題材は、海水に含まれる栄養塩の濃度をひたすら計測する、というものでした。触ったことのない実験器具の使い方や、海水サンプルの扱い方など、すべて一から教えてもらいました。ラボでの研究が、地味であり、シビアであることを知りまし、同時に、集めたデータが何を表すのか、わくわくすることも知りまし。

忙しい中でも、私のためにランチに誘ってくださったり、休日には様々な場所へ連れて行ったりしてくださいました。ポジティブな言葉で私を励まし、的確なアドバイスをくださり、毎日ティナ先生には感謝せすにいられませんでした。それに応えるために、わたしはいつも一生懸命、意欲的に学びました。その日々から、今も、毎日を大切に学び、成長し、立派になることが、わたしにできるお返しなのではないかと考えています。

研究室での活動の前後は、日本工商会、玉蘭荘、交流協会や、博物館などさまざまな場所を訪れました。台湾で活躍されている日本人の方々のお話を聞くことができ、日本や、自分の将来、様々なことについて考えさせられました。

この1ヶ月間、わたしが見てきたものには、なにひとつ無駄なことはありません。台湾の人々のあたたかさに触れ、がむしゃらに毎日を過ごしました。何もかもが新しい世界で、感じたこと・学んだことは、いま、そしてこれからの私に、いつも力を与えてくれるに違いありません。

筆者は中央



香港キャリアプログラムを通じて

海洋科学部 食品生産科学科2年

山主 麻由

海外探検隊キャリアプログラムに参加した私達は、香港大学太古海洋科学研究所 (SWIMS)、そして食品業界のグローバル企業2社、ヤクルトと味の素グループの研修を体験しました。約1カ月に渡るプログラムを通してさまざまな学びを得ることができましたが、今回はその中から二つのことについて話したいと思います。味の素グループであるアモイフードでは、醤油工場と冷凍食品工場にて各部門の方から職場の仕事内容を学びました。食品会社の仕事といえば、研究開発のイメージが強かったのですが、実際は多くの部門が存在し、商品が消費者の手元に届くまでには様々な機能があることに気づかされ、視野がとても広がりました。また、文化や制度、人口など、環境の異なる海外市場における商品開発、販売の難しさについても学ぶことができました。日本とほぼ同じような方法で商品開発や販売を行っているヤクルトと、商品をその国向けに開発、販売しているアモイフードという異なる海外展開を行う二社を見ることのできたことは、貴重な経験になりました。次に、SWIMSの活動について話したいと思います。SWIMSでは、カキ、マングローブ、サンゴの研究について学びました。その形態や生活についてそれぞれの生物からアプローチして研究は行われており、私達は様々なフィールドワークや試料作成に参加しました。実際に研究所で行われているこれらの活動に参加することで、研究に必要な知識や能力がどのようなものであるかについても学ぶことができました。

筆者は左から2番目





海外留学体験記

NTMAインターンに参加して

海洋工学部 海事システム工学科2年

渡邊悠平

2017年の夏、私は日本郵船株式会社様が開催する海外インターンに参加し、フィリピンのNTMAという船員学校に行きました。そこはフィリピン人船員を養成するための学校で、私たち日本人学生は一週間滞在しました。

フィリピン人船員は海運業界の船員の中の多くを占めます。私は彼らがどのような教育を受けているのか知りたくて参加しました。そこでは彼らと同じ授業に参加し、学校の生活を体験することができました。

私たちは英語の面で苦労することが多かったのですが、フィリピンの学生たちは「何か分からないことある?」「今の話分かった?」と優しく声をかけてくれました。それでも、クラスメートと英語で話すことができたときは、嬉しく感じました。お互いの国の文化について話したり、談笑したりすることがずっと続けていたいほど楽しかったのです。

また、授業も興味深く、しばしば学生のプレゼンによって進められる授業では、学生の積極性が目立ちました。授業は船員として働く上での専門性に富んでいました。私自身もよく意見を求められ、なんとか答えることができたことも良い思い出となりました。

最終日にはマニラ市内を巡る観光があり、フィリピンの歴史や文化を学び、学生たちとより交流を深めることができました。インターンに参加できたことは必ずこれからの大学での勉学への励みになると思います。

このような機会を与えてくださった皆様に感謝しております。本当にありがとうございました。



筆者は後列左から7人目

海外で働くということ(シンガポール)

海洋工学部 海洋電子機械工学科3年

池原徹

私は2017年の夏に約一週間、シンガポールにてNYK SHIPMANAGEMENT での海外インターンシップに参加させていただきました。海外で仕事を行なっていくという事はどのようなことかということにとっても興味があったことから参加しようと決めました。シンガポールは東京23区とほとんど同じ面積で、華僑が人口の多くを占めており、他にはマレーやインド、フィリピン系の人々が混在している多民族国家です。

私はFleet supportという部署に配属されました。ここでは船舶のテクニカルな作業が行われており、実際に船舶が受けなくてはいけない検査の期日を実際の証書と照らし合わせて把握し、期日が近いものに関してはその事を当船舶に通知するという業務を行いました。

また、トレーニングセンターに行く機会がありました。そこでは操船シミュレーターや制御室を模して作られた部屋があり、海技者になるため、または船長や機関長になるためのトレーニングが行われていました。トレーニングセンターでは、インド人の船長の方が説明して下さったため、終始英語による見学となりました。

昼食や夜ご飯の際には会社の方々やシンガポールで働かされている海洋会の方々にもお世話になりました。そこでは家族のことや海外で仕事をするということについて決して普段の生活では聞くことができないお話をお聞きすることができ、今後の学生生活でも参考になると思えました。ほぼ一日中生きた英語だけの日があるなど大変貴重な機会を与えてくださり関係者の皆様に感謝申し上げます。



筆者は前列一番左

卒業生より

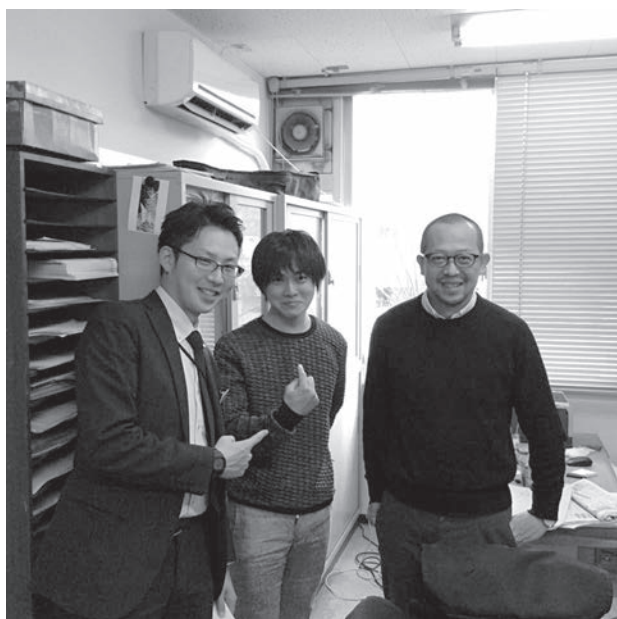
業界で活躍している OB・OGの方々

在校生に向けて

2012年3月 海洋科学部 海洋政策文化学科 卒業
2014年3月 海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻 修了
2014年4月 中央魚類株式会社特種部
2017年4月 秋田県庁農林水産部水産漁港課

青柳 辰洋

私は2014年に本学の修士課程を修了後、築地市場にある魚の卸売会社である中央魚類に就職して、刺身等に使われる高級商材を扱う特種部に勤めていました。業務は日本各地から届く魚介類の販売担当でした。日々変動する魚の相場や売れ行きを確認しながら、次の日の入荷予想と併せて値段を付けないと魚は売れません。魚の値段を予測することは経験が物を言う世界であり、



中央が著者

日々の成果に一喜一憂しているだけでなく、その日の経験を次に生かして、いかに売り上げを伸ばすか考え実行する充実した日々を過ごしていました。

一方で、私は埼玉県出身でありながら、縁あって学生時代に秋田料理店でアルバイトをしておりまして、その中で秋田県の文化や人の温かさに触れるうちに、自分の中で秋田県が存在が大きくなりました。就職してからも、やはり秋田県が好きで移住したいという思いが強くなり、自分が本当にやりたいことは何であるかを見つめ直した結果、秋田県に移住して水産業の振興に取り組みたいと強く思うようになりました。それからは、会社に許可を貰い仕事を続けながら公務員試験の勉強をしました。その結果、秋田県の公務員試験に合格し、2017年から念願だった秋田県に移住することができました。

秋田県庁に就職してからは、県内における水産業の1年間の動向調査や秋田県への移住就業セミナーの開催業務を担当しております。特に水産業の動向調査は水揚量や水揚高、漁業者数といった数字だけでなく、漁船隻数や各漁協の連絡先、漁業権についてなど、ありとあらゆるデータを取りまとめる作業であり、大変さを感じることもありますが同時に大きなやりがいも得ることができています。また、築地市場で働いていた時の経験を生かし、県庁に寄せられる水産物の流通に関する問い合わせに答えることもありました。1週間の業務が終わり、週末になると県内の温泉やご当地グルメを食べに出かけ、そこでまだ知らなかった秋田を発見するなど、秋田県での生活をとても楽しく過ごしています。

社会人になって学生時代を振り返ると、もっと色々な場所に出かけ、体験できることをやっておけば良か

ったと思います。様々な経験を積むことで自分自身がやりたいことが見えてくるだけでなく、たくさんの方と出会うことができます。また、就職してからやりたいことが見えて来る場合もあるので、その時は自分が本当にやりたいことは何かを考えてみてください。

最後になりますが、悔いの残らない充実した学生生活を送ってください。社会に出て活躍する皆さんと、いつかどこかでお会いできればと思っています。

後輩の皆様へ

2011年3月 海洋工学部 流通情報工学科卒業
2011年4月 澁澤倉庫

菊池光輝

大学時代に「今の行動に疑問を持つ」と学んだことはいつも頭に置いている言葉です。

私は流通情報工学科を2011年に卒業し、「物流」を学んだことをきっかけに澁澤倉庫に入社しました。現在、倉庫業務の現場に従事し7年目になります。業務内容は倉庫内での入庫から出庫までのオペレーションをしています。倉庫というと単にものを保管しているといったイメージがあるかもしれませんが、温湿度管理やギフト包装が必要なもの、危険品、輸出入品など商品により取り扱い方は様々です。顧客の要望を汲み取り最適な保管、荷役をどう行っていくか考えることが私の担当する仕事です。

冒頭の言葉は学生時代に、PDCAサイクルを行う際

の第一段階として教えていただいたものでした。まずは疑問をもってみることから始めると、興味・関心が湧くと同時に問題点も明らかとなるため、深く理解しやすくなります。

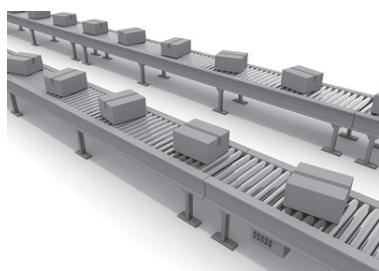
また、業務を行う上で「この人に聞いたらなんとかなる」と思われる人になると自然と周りも協力的な行動を取ってくれることが多いと常々感じます。そのため物事をより早く、深く理解するために私は疑問を持つことから始めています。

例えば、4アイテムを1つの箱に梱包するセット作業で、入れ間違いが起こり中の確認作業が必要になりました。この時、箱の梱包を全て開け中の確認作業を行うこともできますが、発想を変え別の方法をとる事もできます。私の場合は箱の重量を測ることで、差異を見つけ開梱の手間が省けるのではないかと考え、早く問題を解決できる方法をとりました。また、効率化により作業負担の軽減と残業時間のコスト削減のメリットももたらすことが出来ました。

話は変わって私が学生時代にもっとやっておけばよかったと思うのは寮生活やサークル活動です。上下の関係、後輩指導などは特に学生の内に多く経験することをおすすめします。

そうはいつでも本学は実習や研究など大学生活でしか出来ない経験をすることが多いと思います。

社会人も悪くはないですが、学生生活は短いため今出来ることが何かを考え、与えられたチャンスを最大限活かした楽しい学生生活を送ってください！



実行委員長から

海鷹祭の実施報告



海鷹祭を終えて

第58回海鷹祭実行委員会委員長
海洋科学部 海洋政策文化学科3年

木藤 拓也

2017年11月3日から11月5日に渡って、東京海洋大学品川キャンパスにて第58回海鷹祭を無事開催することができました。ご協力頂いた企業様、大学関係者の皆様、各出店団体の皆様、またご来場いただきました多くの方々に深く御礼申し上げます。皆様のお力添えにて今年も海鷹祭を盛り上げることができました。

第58回海鷹祭のテーマは「海大無双」で、もともとの言葉は「海内無双」という字で世に二つとないただ一つのもの、という意味を表しますが、「海内」という字を海洋大の大にかけて「海大」にし、海鷹祭を世に二つとない海洋大らしい独自性を持った学園祭にする、という意気込みを表しました。毎年海鷹祭では海や魚を主に扱いますが、一風変わった催しを開いておりますが、「海大無双」というテーマの通りに、今年度も海洋大学ならではの多くの催しを設けることができ、幅広い年齢層のご来場者様に興味、関心を持っていただき、楽しんでいただけたことと思います。

今年度の海鷹祭では、2日目に若干の雨天に見舞われましたが、来場者17010人と、昨年を上回るほどの多くの方々にご来場いただき、非常に活気に溢れておりました。中でも国際鮪研究会様、AJDツナ様、



並びにマルニ水産株式会社様にご協力頂いた委員によるクロマグロの解体実演では、多くの方々が見学に来てくださり、大きなクロマグロやその解体に大変な盛り上がりを見せておりました。また登録有形文化財である雲鷹丸の一般開放により、本学の歴史の一端にも触れていただけたかと思えます。特に今年度の雲鷹丸の一般開放には、多くの小さいお子様方が見学に来て、興味を持っていただくことができ大変嬉しく思います。その他、東京海洋大学の名誉博士であるさかなクンのトークショーや海洋大学らしい外部出演団体の方々へのステージ登場時にも、メインストリートが埋め尽くされるほど多くのご来場者様に楽しんでいただけたことと思います。

委員会企画であるビンゴ大会、学内向け企画、SeafoodNo.1グランプリ、うみたかハンドメイドマルシェにも多くの方々にご来場いただき、楽しんでいただけたことと思います。

それから、学内・学外団体様の出店においても海洋大らしい模擬店、企画を毎年開催していただき、ご来場いただいた方々から大変評判をいただいております。学内・学外団体様のご協力により、今年度もご来場いただいた方々に海洋大らしさを味わっていただけたことと思います。

最後になりますが、今年度の海鷹祭も大学と地域の方々との交流の一助となることできていれば幸いです。また来年度の第59回海鷹祭、並びに海鷹祭実行委員会もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新任教員の紹介



海洋電子機械工学部門 助教
米田昇平

2017年10月1日付けで海洋電子機械工学部門の助教として着任しました米田昇平と申します。米田と書いて「こめだ」と読みます。少数派ですが、この機会に覚えていただくと嬉しいです。

私と本学との出会いは、私が高等専門学校で学生時代に本学の研究室を見学させていただいたことです。大学院修了後すぐに本学の教員として採用していただいたことを考えると、何らかのご縁を感じている次第です。

私は電気工学科の出身で、専門分野はパワーエレクトロニクス（略してパワエレ）です。格好良く言えば、電気を自由自在に操り、電源装置などの省エネルギー化を実現する技術です。

最近では家電にもパワエレ技術が適用されていますが、縁の下の力持ちのような技術であり、なかなか気付いてもらえません。しかし、パワエレ機器の代表格であるインバータを搭載したエアコンなどが普及しており、家電の省エネルギー化は確実に進んでいます。

さらに、電気鉄道、電気自動車、電気推進船など、様々な用途でパワエレ技術の存在感は増しており、その応用先は家電民生から産業機器まで多岐にわたります。その中で、学生の皆様と一緒に様々なパワエレ技術の研究ができれば良いなと楽しみにしております。

微力ではありますが、本学での教育・研究活動を通して学生の皆様の成長、そして、本学と海洋工学の発展に貢献できればと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



海洋資源エネルギー学部門 教授
ゴルメン ラルス

I grew up on a small island on the west coast of Norway, facing the Norwegian Sea. The island was rather isolated, only once per day could we commute by local steamer to the nearest islands towns. Watching the local fishermen bringing back the catch of the day to the fish wharf, convinced me about the richness of the sea and the gifts it provided to the community, for free. These impressions from my early life in Norway inspired me to begin studying oceanography at the University of Bergen, where I also ended up working for a few years with studies particularly on the Nordic Seas, and the Arctic. Later, I have worked at NIVA, the Norwegian Institute for Water Research, where my special topics are environmental studies related to the fjords of Norway and the coastal waters. I always kept fascinated about the energy resource the ocean represents, like in waves, tides and the thermal energy. Early on I established contacts in Japan and elsewhere, about OTEC, Ocean Thermal Energy Conversion, where Japan is a leading country. Later on, I also started working on wave energy, and helped out establishing the Runde Environmental Centre in Norway, where testing of Wave Energy Converters (WECs) is on-going. Japan and Norway have a lot in common, regarding their association with the ocean. Both countries have long coastlines and significant fisheries and aquaculture, with a variety of maritime industries. I look forward to working at TUMSAT and to inspiring new students to study the many aspects of the oceans, by also bringing in the experience from Norway and elsewhere.

学生の

課外活動報告

動植物研究会

動植物研究会は、初心者からコアな人まで幅広い層の部員を抱える生物系サークルです。

活動内容は、生き物の採集・観察といった野外活動から、採った生き物の飼育・解剖・標本作製・調理といった室内活動まで多岐に渡り、それぞれが自由に自分の好きなことをしています。

また、生き物についても、魚類や爬虫類、虫を始めとする動物から、水草、コケといった植物まで幅広いものを対象としています。そのため、それぞれが知らないことについて新たに興味を持てたり、あるいは自分の好きな生き物を紹介することができたり、それぞれの好きな生き物についての知識を共有したりすることができるので、刺激的でとても楽しいです。

そして、毎年11月の海鷹祭では、部室で飼育している生き物を展示し、来場者の皆さんに紹介しています。それぞれの部員による個人展示や部員で作成した標本の販売、食べ物の販売も企画しており、かなり内容の濃いアツいものになると思いますのでぜひご覧ください。



男子バレーボール部

東京海洋大学男子バレーボール部は越中島キャンパスの体育館において週3回の練習を行っています。活動時間は主に18時～20時過ぎまででその後も21時30分まで自主練習を行っています。大学からバレーボールを初めてみたい！という初心者の人にも、中学や高校からバレーボールをしている先輩たちが基礎から丁寧に教えています。部のみんなが各々の技術の向上を目指して練習に精を出しています。

バレーボールは1人では競技できないスポーツであり、互いにサポートしあうスポーツです。どこにトスを上げればスパイクが打ちやすいか、どこにレシーブすれば良いトスをあげられるのか、などをチーム内で考えてプレイするよう心がけています。

年に二回、春リーグと秋リーグという大きなリーグ戦があります。他にも国公立戦や首都大リーグなどさまざまな試合に出場しています。私たちチームは、この部がリーグ昇格と試合に勝利することを目標にしています。チームが目標に近づけるよう、皆さん応援よろしくをお願いします。



2017年度後期定例学生大会報告書

東京海洋大学品川キャンパス自治委員会議長
村田 陽 菜

1. 各委員会の活動報告および決算報告

各委員会の活動報告および決算報告を行い、全ての委員会の報告が承認されました。

報告内容は以下のとおりです。

●自治委員会

決算報告は2018年度前期学生大会で行います。

●海鷹祭実行委員会

今期については活動報告のみです。第58回海鷹祭の来場者数は約17,000人でした。

決算報告は2018年度前期学生大会で行います。

●サークル委員会

〈収 入〉

前年度繰越金	240,740円
自治会費配分金	4,110,750円
罰金	28,784円
計	4,380,274円

〈支 出〉

サークル予算配分金	4,110,750円
フレッシュマンセミナー物品配送費	26,556円
フレッシュマンセミナー物品弁償代	9,801円
資料制作費	4,940円
運動部予算貸付、予算配分時の余り	74,184円
計	4,226,231円

〈来年度への繰越金〉

収入合計	4,380,274円
支出合計	4,226,231円
来年度繰越金	154,043円

2. 2017年度自治会費分配報告について

〈収 入〉

自治会費	
新入生(20,000円×295人)	5,900,000円
編入生(10,000円×4人)	40,000円
未納入者(20,000円×5人)	-100,000円
計	5,840,000円

〈支 出〉

サークル委員会	(72.5%)	4,110,750円
海鷹祭実行委員会	(25%)	1,417,500円
自治委員会	(2.5%)	141,750円
印刷機積立代	(固定)	250,000円
計		5,920,000円

3. 2018年度自治会費分配案について

〈収 入〉

自治会費	
新入生(20,000円×275人)	5,500,000円
編入生(10,000円×7人)	70,000円
計	5,570,000円

〈支 出〉

サークル委員会	(72.5%)	4,052,750円
海鷹祭実行委員会	(25%)	1,397,500円
自治委員会	(2.5%)	139,750円
印刷機積立代	(固定)	250,000円
計		5,840,000円



ニュース

&

トピックス

「父母等懇談会」を開催しました

●越中島キャンパス

海王祭の初日平成29年5月27日(土)、越中島キャンパスにて海洋工学部父母等懇談会を開催し、140名以上の方々にご来場いただきました。

稲石理事・副学長（教育・学生支援担当）、塚本海洋工学部長ほか、金岡・黒川の副学部長、各学科主任、岩本海洋工学部後援会理事を含む関係教職員が出席しました。最初に稲石理事より今年度より3学部体制となった大学の教育、及び学生支援の現状について、続いて塚本海洋工学部長から、学部の歴史・教育理念・学部独自の学生支援・海洋工学部における積極的な海外派遣についての説明がありました。海外派遣については昨年の実績に加え、海洋会からのご支援や海洋工学部後援会からのご寄附に基づく援助等、多方面の支援策を紹介し、学生の海外派遣に対する学部の取り組み姿勢を示しました。その後、学科主任より各学

科の教育研究内容や特色、就職状況等の説明、岩本教授より海洋工学部後援会の説明がありました。最後の質疑応答では、教育内容や就職状況等について数多くのご質問や貴重なご意見をいただきました。



稲石理事・副学長の説明

●品川キャンパス

平成29年11月5日(日)に本学主催による品川キャンパス父母等懇談会を、品川キャンパス・白鷹館1F

講義室で開催致しました。
大学からは、稲石理事・副学長（教育・学生支援担当）、



稲石理事・副学長の説明



佐藤学部長の説明

佐藤海洋科学部・海洋生命科学部長、岡安海洋資源環境学部長ほか学科主任等の教職員が出席し、大学の現状や教育・学生支援等の最新情報について報告致しました。

今年度は164名の保護者等の来場があり、大学からの説明に熱心に耳を傾けておられました。また、質疑応答では数多くの質問が寄せられ、大変有意義な懇談会となりました。

学長と学生との懇談会を開催しました

学長と学生との懇談会が平成29年6月19日(月)に品川キャンパス白鷹館、6月20日(火)に越中島キャンパスマリン・カフェにおいて開催され、学長、教育・学生支援担当理事、各学部長、研究科長、事務局長ら

と両キャンパスあわせて19名の学生が参加しました。授業・カリキュラム、学内施設、国際交流、就職など多岐にわたるテーマについて活発な意見交換が行われました。



品川キャンパス 白鷹館にて



越中島キャンパス マリン・カフェにて

平成29年度東京海洋大学修学支援事業基金奨学金授与式(前期)を行いました

平成29年7月7日(金)、品川キャンパス白鷹館と越中島キャンパス1号館で遠隔会議システムを用いて平成29年度東京海洋大学修学支援事業基金奨学金授与式(前期)を挙行了しました。

授与式では、竹内学長が奨学生15名の代表者へ目録を授与し「この奨学金は、多くの方々の寄附により修学に困難がある学生を支援することを目的として給付

されるものであり、学業において十分な成果を上げることで寄附者の思いに応えて欲しい」と激励の言葉を述べ、代表者は「いただいた奨学金を大事に使い勉学の用に役立てます」という謝辞を述べました。その後、学長と奨学生の懇談会を開催し、奨学生より感謝の言葉や今後の抱負が語られ大変有意義な会となりました。



激励の言葉を述べる竹内学長

「海の日」記念行事を開催しました

一般の方々に海に親しみ・興味を持っていただくとともに、本学の教育研究活動をわかりやすくご紹介するために、7月17日(月)の「海の日」に越中島・品川の両キャンパスで記念行事を開催しました。

越中島キャンパスでは、毎年大好評の電池推進船「らいちょうN」、調査・研究船「やよい」の体験航海、学生サークル海事普及会によるぼんぼん船作りやペーパークラフト教室などを行いました。

また、品川キャンパスでは、海の生き物や金魚のタ

ッチングプールで、子どもたちは海の生き物や金魚を手に取り観察をしていました。マリンサイエンスミュージアムでは、学芸員の資格取得を目指す学部学生の展示説明がありました。

その他、両キャンパスで教育研究に関するイベントや体験教室等が数多く行われました。生協では、各地の漁協から直送しているアイゴフライ、気仙沼わかめ等を使った「海洋大ランチ」が特別に提供されました。



マリンサイエンスミュージアム特別一般公開



電池推進船「らいちょうN」体験航海

平成29年度(9月期)学生表彰授与式を行いました

平成29年9月27日(水)、品川キャンパスにおいて、研究活動において特に顕著な業績を挙げたと認められる大学院学生4名及び社会活動において優れた評価を受

け本学の名誉を著しく高めたと認められる学部学生1名を対象とした、表彰状及び記念品の授与を行いました。



竹内学長(前列中央)と受賞した学生達

平成29年度9月期学位記・修了証書授与式を行いました

平成29年9月28日(木)、越中島キャンパス越中島会館講堂にて、平成29年度9月期東京海洋大学学位記・修了証書授与式が執り行われ、学部卒業生3名、乗船実習科修了生56名、大学院博士前期課程修了生30名、

博士後期課程修了生17名の計106名に学位が授与されました。

ご来賓、卒業生・修了生のご家族・ご友人など多くの方々が参列され、卒業生・修了生の門出を祝いました。



学位記・修了証書授与

平成29年度10月期大学院入学式を行いました

平成29年10月5日(木)、品川キャンパス楽水会館大会議室にて、平成29年度10月期大学院入学式が執り行われ、大学院海洋科学技術研究科の博士前期課程44

名、博士後期課程18名の計62名が東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。また、合唱部による校歌斉唱が行われ新入生入学を歓迎しました。



竹内学長による式辞

海鷹丸(うみたかまる)が第53次航海(遠洋航海)、 第21次「海鷹丸」南極観測航海に出港しました

平成29年11月13日(月)、本学練習船海鷹丸が、第53次航海(遠洋航海)に向け、豊海(とよみ)水産埠頭を出港しました。

船内において行われた出港式では、竹内学長の挨拶に続いて、文部科学省研究開発局海洋地球課小酒井極域科学企画官、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所中村所長にご挨拶を賜り、その後、野田船長から出港の挨拶が行われました。

出港直前には、本学OBで構成される楽水会雲鷹丸合唱団と本学の合唱部による校歌や水産逍遙歌、スタンバイの歌などが歌われ、乗組員を激励しました。海上

では本学カッター部の見送りを受け海鷹丸は出港しました。

第53次航海(遠洋航海)は、水産専攻科が実施する三級海技士免許(航海)の取得に向けた、水産学教育の"総仕上げ"として行われるものです。乗船する専攻科学生37名はインド洋にてマグロ延縄(はえなわ)実習や海洋調査等を行った後、フリーマントル(オーストラリア)に入港します。その後、研究者が合流した後、12月31日(日)に第21次「海鷹丸」南極海観測航海に出航し、2月19日(月)に帰港しました。



出航する海鷹丸

掲 示 版

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないで下さい。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

平成29年度留学生懇談会を開催しました

留学生と地元住民の皆様や教職員、在学生との親睦と一層の国際交流を図ることを目的として毎年懇談会を開催しています。本年度は、平成29年12月20日(水)に越中島キャンパスのマリン・カフェで開催し、181名が出席しました。

竹内学長の開会挨拶の後、海洋会、楽水会からのご挨拶と、地元町会の代表の方からご挨拶及び乾杯のご発声をいただき、懇談会が始まりました。また、懇談会後半では、海洋工学部1年生の李雪格(リセツカク)さんが

留学生代表挨拶を行った後、国際交流サークルの司会進行により、クイズや出し物の紹介が行われました。出し物では、中国からの留学生の銭冬妍(セントウケイ)さんによる歌、茶道部による御手前の披露が行われました。さらには、佐々木剛准教授による詩吟の披露も行われ、懇談会は一層の盛り上がりを見せました。

最後に、全員で東京海洋大学校歌を歌い、東海国際担当理事の挨拶でお開きとなりました。

云 談 懇 上



竹内学長の開会挨拶



李雪格さんの留学生代表挨拶



東海国際担当理事の開会挨拶



懇談の様子

サークルリーダーシップ研修会を開催しました

平成30年1月25日（木）に品川キャンパスの楽水会館でサークルリーダーシップ研修会を開催し、約80名の学生、顧問教員が参加しました。

この研修会は、リーダーシップのありかたについてワークショップを通して理解を深めることを目的としたものです。昨年と同様、DMO推進機構代表理事・大社充氏を講師にお迎えして開催しました。

今野学生支援委員会副委員長による開催の挨拶の後、6人で1つのグループを作り、参加者がこれまでの

課外活動を振り返りながら「リーダーシップを考える」をテーマに討議し、その結果を発表しました。

また、大社講師からリーダーシップに関する講義もいただき、内容の濃い研修会となりました。

学生からは、「リーダーにしか分からない悩みを他団体のリーダーと共有できてよかった」「講義を通じて様々なリーダー像を知ることができて大変有意義だった」などの感想が寄せられ、リーダーシップについての理解を深める研修会となりました。



今野学生支援委員会副委員長の挨拶

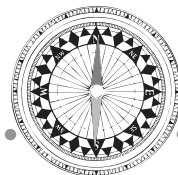


大社講師による講義の様子

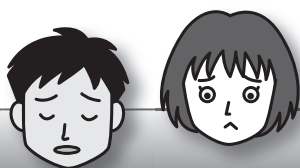
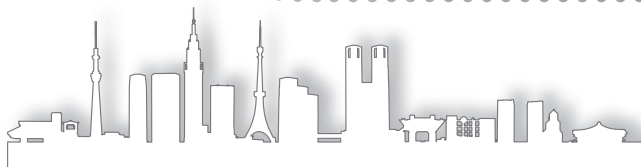


グループ討議の様子

学生相談室からの



お知らせ



学生相談室について

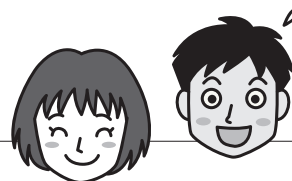
学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

品川キャンパス

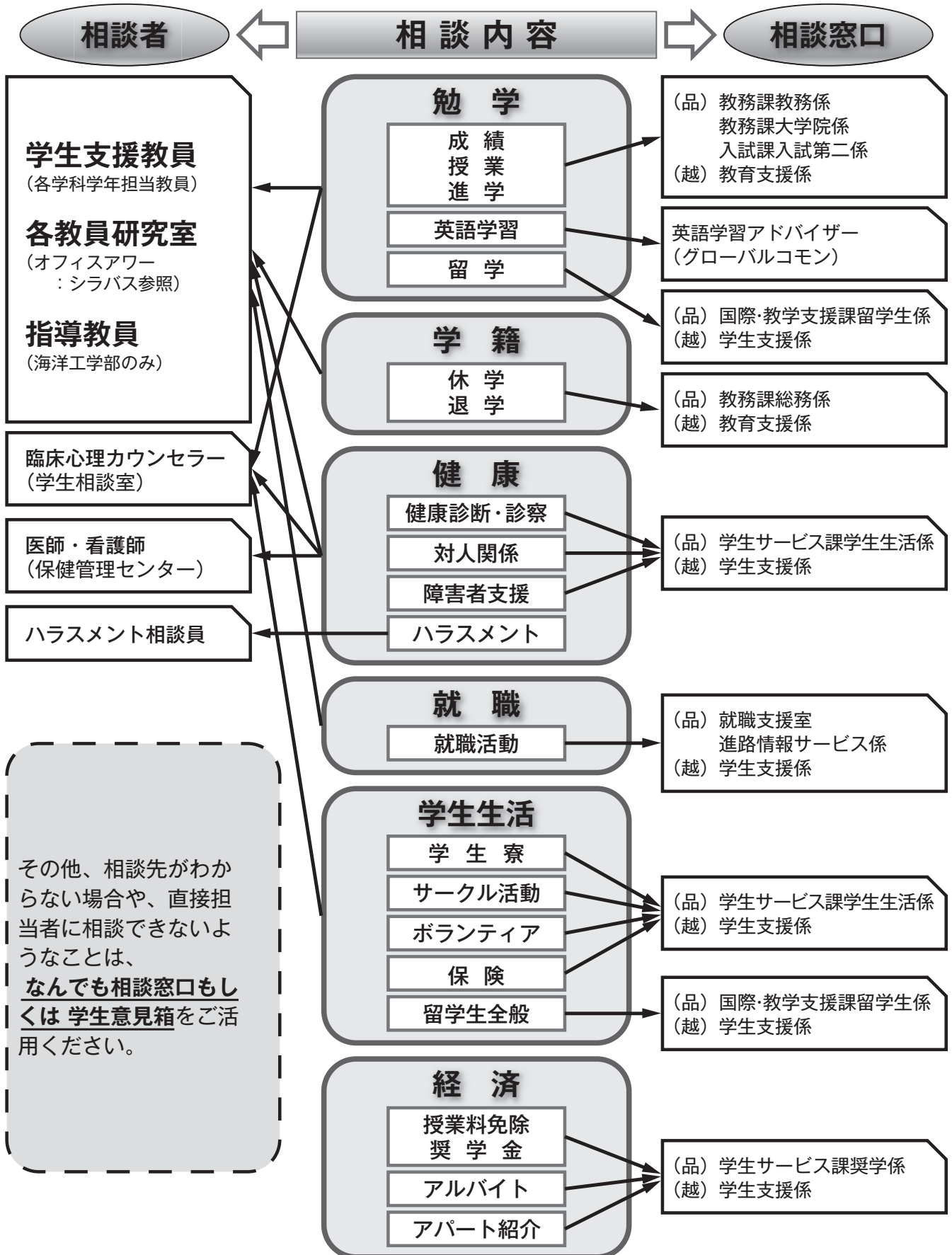


場 所	大学会館1階学生相談室
日 時	水曜日 12:30～16:30 木曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」
相談員	染谷先生（女性臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 高井先生（女性臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館1階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」
相談員	善積先生（女性臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

本学の学生相談体制について



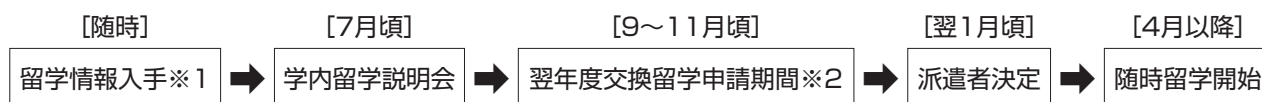
お知らせ

交換留学制度について

東京海洋大学では平成30年1月現在、世界の17カ国・地域の51大学と交換留学に関する協定（学生交流協定）を締結しています。交換留学とは、協定校へ3か月～最長1年間留学できる制度で、協定に基づき「受け入れ大学は入学金、

授業料を徴収しない」「留学先で取得した単位は、審査のうえ本学の単位に認定できる」「協定校から生活面、教育面での指導や、宿舍申請のサポートを受けられる」ほか、「専門的な講義を履修できる」など、個人的に語学学校などへ留学するのに比べて様々なメリットがあります。皆さんもぜひ、在学期間中に海外留学をしてみませんか？

◆毎年の申請の流れ



※1 本学担当窓口で配布する「留学の手引き」や各協定校のHPをご覧ください。

※2 留学開始時期によっては、申請期間後も随時受け付けています。

◆留学できる大学と派遣実績（平成30年1月1日現在）

※3 大学名後ろの括弧は過去5年間の派遣者数（平成25年度～29年度出発者）

(中国) <ul style="list-style-type: none">・哈爾濱商業大学・大連海洋大学・上海海洋大学(1)・広東海洋大学・浙江海洋学院・大連海事大学(1)・上海海事大学(4)・中国海洋大学(1)・集美大学・華東理工大学・華東師範大学(1)・香港大学生物科学学院(1) (台湾) <ul style="list-style-type: none">・台湾海洋大学(1)・高雄海洋科技大学・台湾大学理学院 (韓国) <ul style="list-style-type: none">・釜慶大学校・全南大学校(4)・韓国海洋大学校(1)・木浦海洋大学校・釜山大学校	(インドネシア) <ul style="list-style-type: none">・ボゴール農科大学(1)・サムラトゥランギ大学・ハサヌディン大学・ディポネゴロ大学 (フィリピン) <ul style="list-style-type: none">・フィリピン大学ヴィサヤス校(1)・サンカルロス大学 (タイ) <ul style="list-style-type: none">・カセサート大学(3)・チュロンコン大学(1)・プリンスオブソンクラ大学・マエファラン大学・マヒドン大学・マヒドン大学・ブラパー大学(1) (ベトナム) <ul style="list-style-type: none">・ニャチャン大学・カントー大学 (マレーシア) <ul style="list-style-type: none">・マレーシア大学サバ校 (カナダ) <ul style="list-style-type: none">・ヴィクトリア大学(3)	(オーストラリア) <ul style="list-style-type: none">・タスマニア大学(2)・フリンダース大学理工学部(1) (トルコ) <ul style="list-style-type: none">・エーゲ大学水産学部・イスタンブール大学・チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学(3)・ムーラ・シツウキ・コンソマン大学水産学部 (アイスランド) <ul style="list-style-type: none">・アイスランド大学(2)・アクレイリ大学(1) (ノルウェー) <ul style="list-style-type: none">・ノード大学(6)・ノルウェー北極大学 (ペルー) <ul style="list-style-type: none">・国立アグラリア・ラ・モリーナ大学 (ブラジル) <ul style="list-style-type: none">・サンパウロ大学 (アルゼンチン) <ul style="list-style-type: none">・サンマルティン大学 (ナミビア) <ul style="list-style-type: none">・ナミビア大学
---	---	---

◆交換留学の担当窓口

(品川キャンパス) 学務部国際・教学支援課留学生係
(越中島キャンパス) 越中島地区事務室学生支援係

就職支援体制について

学生への支援として、就職ガイダンス、企業説明会、公務員試験対策講座、ジェネリックスキル測定テストの実施、留学生に特化した進路ガイダンス、「就職活動体験記」の作成、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びイベントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を実施すると共に、学生の就職に対する意識向上を図り、教学と学生支援の協働を強化して進路支援体制の充実を図っています。

学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップを促進することにより、様々な形で社会からのニーズに触れ、学

生のキャリアデザインに資する機会を設けています。学部で開講する「グローバルキャリア入門」「キャリア形成論」等のキャリア関連科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特徴に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。

また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教授によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます。

図書館からのお知らせ

東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内

— 眠っている本で母校を応援しませんか? —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでもお申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

■申込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バリューブ

ックス(電話：0120-826-292)に連絡してください。宅配業者が受け取りに参ります(5冊以上なら送料はかかりません)。

【注意】以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌

詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。

<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊(点)数が少ない場合は回収ボックスもご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館で連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住所
国立科学博物館(上野地区)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2

立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しています。

学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

国立劇場の利用について

本学は「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しています。

学生証を提示することで、国立劇場主催公演の歌舞伎、文楽、日本舞踊及び邦楽並びに国立演芸場の公演の一部を、特別割引料金(キャンパスメンバーズ料金)で鑑賞することができます。また、イヤホンガイドや公演プログラムも割引利用・購入ができます。

本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照願います。

<http://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu.html>

◆歌舞伎公演の料金

※料金は平成29年4月現在のものです。

等級	一般料金	キャンパスメンバーズ料金
特別席	12,500円	6,300円
1等A席	9,800円	4,900円
1等B席	6,400円	3,200円
2等A席	4,900円	2,500円
2等B席	2,700円	1,400円

◆イヤホンガイドや公演プログラムの割引価格

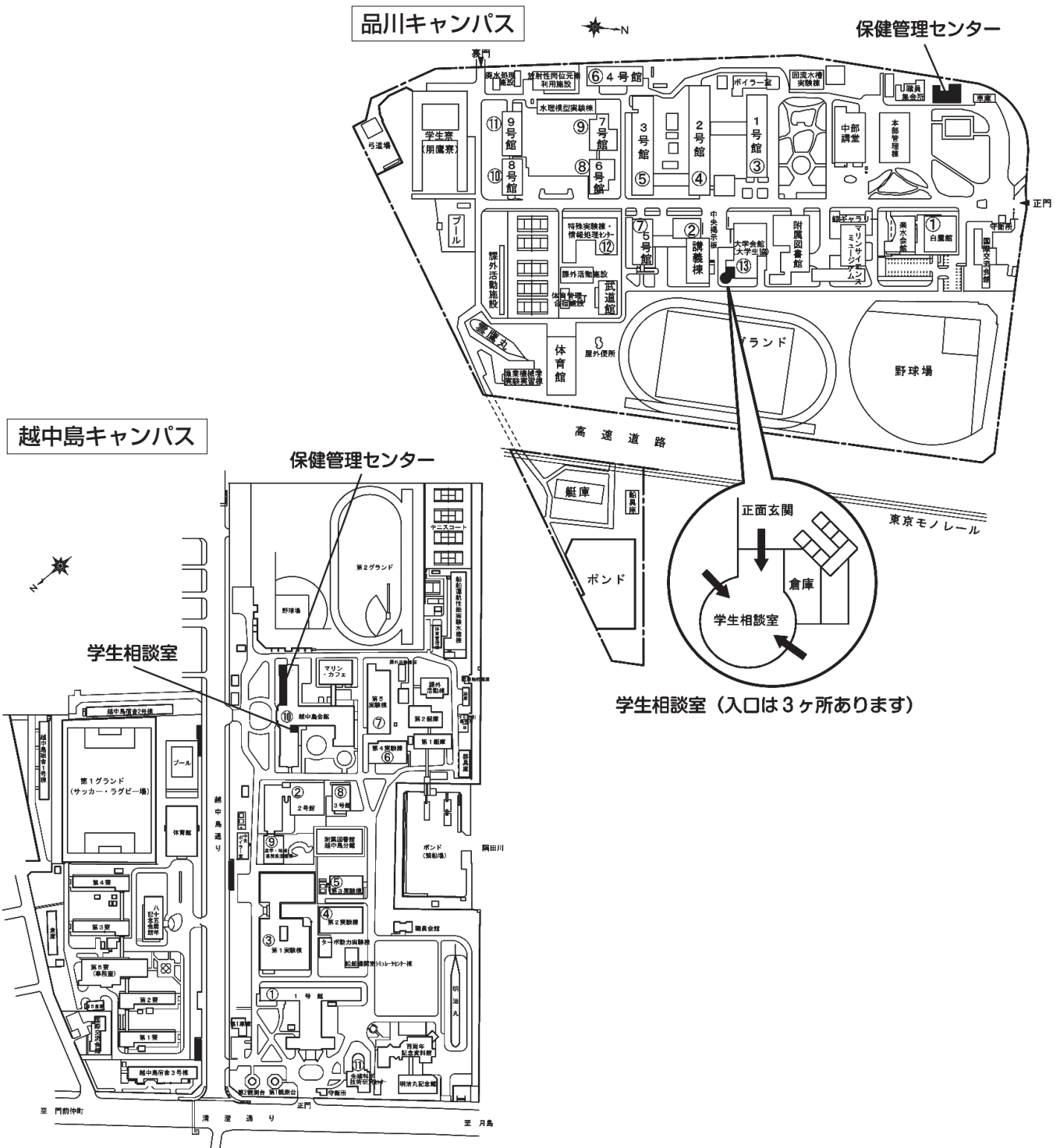
イヤホンガイド：通常価格から150円割引。
公演プログラム：通常価格から100円割引。

保健管理センター開所時間変更のお知らせ

平成30年4月1日から、両キャンパスの保健管理センターの開所時間が下記のとおり変わります。
授業期間中は、昼休み（12:00～13:00）と5時限終了

後の18時まで開所することになり、今までよりも利用しやすくなりましたので、是非お気軽に保健管理センターをご利用ください。

変更前（～平成30年3月）		変更後（平成30年4月～）	
〔開所時間〕	9:00 ～ 11:30	〔開所時間〕 授業期間	9:45 ～ 13:00
	12:30 ～ 16:30		14:00 ～ 18:00
		春・夏・冬季休業期間	9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 16:30



学生相談室（入口は3ヶ所あります）

緊急時連絡システムへ登録を!

—緊急時連絡システムとは—

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール配信システムです。

1. 台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による緊急の休講等をメールで連絡します。
2. 災害時の安否確認や健康状態の収集手段としても使用します。
3. その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせもメールで連絡します。

—登録方法—

○緊急時における大学からの連絡を確実かつ速やかにご確認いただくため、携帯電話・スマートフォン・PHS等の携帯端末及び自宅PC等の複数のメールアドレスの登録を行ってください。

利用案内メールが届かない場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

登録手順は以下のとおりです

1. 登録用メールアドレス(regist_kaiyou@school-i.net)宛てに、配信を希望するメールアドレスから空メールを送ります。
1人につき、3つのメールアドレスを登録することができます。(携帯、PCとも登録可能です。
携帯の方はQRコードからアクセスすることも出来ます。
2. 登録用のメールが届きます。
(メールが届かない場合は、携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい)
3. メール内のURLをクリックすると登録画面が表示されます。
4. 登録画面にログインIDとパスワードを入力し登録を完了します。
ログインIDは、学内メールアドレス(****@kaiyodai.ac.jp)に送信される利用案内メールに記載されています。
ログインID: ****
ログインPS: ****



—メール受信時の注意—

※メール配信システムではメール受信者が開封したかどうかの確認が取れるシステムになっています。また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。メールを受信した場合は必ず開封し、内容を確認した後、指示に従い回答を行ってください。

※空メール送信後、登録用メールが届かない場合は携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい。
(指定着信する場合はschool-i.netをドメイン指定して下さい)

※ログイン画面 (<http://www.school-i.net/kaiyou/parent/login.php>) をブックマークしておく、後日、メールアドレスやパスワードの変更を行う際に便利です。

※ログインID、パスワードは各自で管理してください。パスワードは、初回のログイン後、変更してください。

※配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、再度メールアドレスを登録してください。

※パスワードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

※メール配信システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

—個人情報の取り扱いに関して—

メール配信システムにご登録いただきましたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に法り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

緊急時連絡システムに関する問合せ先:

総務部総務課 so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp
03-5463-0354

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

Tokyo University of Marine Science and Technology

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

- when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
- to gather information about the safety and health of university members after a disaster
- to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

Initial contact

A notice regarding the use of the emergency contact system will be forwarded from the system to your university address (@kaiyodai.ac.jp). Follow the instructions to register your personal email address.

Registration procedure

1. Send a blank email to the registration address (regist_kaiyou@school-i.net) from the address you wish to register. Up to 3 addresses can be registered per person, whether a mobile phone or PC address.

Mobile phone users can access the registration site directly using the QR code pictured in this box.

2. A registration form is emailed to your address (check your spam filter settings if the email doesn't arrive)
3. Click the URL displayed in the form to access the registration screen
4. Log in using the ID and password included in the email initially sent to your university address.

ログインID:*****

ログインPS:*****



Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When contacted, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a blank email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page to your bookmarks to easily access your email and password settings.
- Manage your ID and password carefully, and make sure that you change your password after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your password, contact the administration using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division

Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要!

ネットワーク障害防止のための注意事項

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。



ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。また、壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、
夕コ配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



注意

PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、8 及び Mac OS Xは、メーカーのサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。

現在利用可能なOSは、Windows10、Windows8.1、Windows7、macOS(High Sierra)です。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

学生関係窓口の対応時間変更のお知らせ

平成30年度の夏季休業期間から両キャンパスの学生関係窓口の対応時間が下記のとおり変わりますので、ご注意ください。

《品川キャンパス》

窓 口	変更前（～平成30年6月）	変更後（平成30年7月～）
学務部事務室 （講義棟1階） 就職支援室 （白鷹館1階）	授業期間／春・夏・冬季休業期間 8：30～18：00	授 業 期 間 8：30～18：00 春・夏・冬季休業期間 9：00～12：00 13：00～17：00
入 試 課 （本部管理棟1階）	授業期間／春・夏・冬季休業期間 8：30～12：00 13：00～17：00	授 業 期 間 8：30～12：00 13：00～17：00 春・夏・冬季休業期間 9：00～12：00 13：00～17：00

《越中島キャンパス》

窓 口	変更前（～平成30年6月）	変更後（平成30年7月～）
越中島地区事務室 （1号館1階）	授 業 期 間 8：30～18：00 春・夏・冬季休業期間 8：30～12：00 13：00～17：15	授 業 期 間 8：30～18：00 春・夏・冬季休業期間 9：00～12：00 13：00～17：00

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入学して脱退する時に苦労した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。



セミナー等の就活商法については、安易に個人情報伝えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

（品 川）学生サービス課学生生活係

（越中島）学生支援係

参考：東京都公式ホームページ ○報道発表資料 <http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2013/03/20n35500.htm>

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

